

社会を支えた石の技術
～その成立と展開を考える～

第2回「城郭の石積み・石垣」

～ 武田氏館跡から甲府城跡へ～

講 師 甲府市教育委員会
佐々木 満

主 催 山梨県生涯学習推進センター・山梨県埋蔵文化財センター

城郭の石積み・石垣 ～武田氏館跡から甲府城跡へ～

甲府市教育委員会 佐々木 満

1 はじめに(用語の定義)

石積みの定義は、基本的に石を積み上げただけの低い石積みであり、石垣の定義は、石積みの裏にこぶし大の裏込め石(栗石)等を入れて排水対策を施したものを指す。よって、石積みと石垣は区別して扱われている。

2 山梨県内に残る城郭の石積み・石垣

中世: 武田氏館跡・要害山・勝沼氏館跡・獅子吼城跡・本栖城跡・真篠砦・葛谷城跡

近世: 甲府城跡・勝山城跡

3 武田氏館跡の主な石積み・石垣の様相

武田氏館跡は、永正16年(1519)武田信虎によって造営され、天正9年(1581)に一時廃城。その後、徳川氏・豊臣氏により甲府城築城までの間利用された。よって、年代的には永正年間から文禄・慶長年間まで機能したと考えられ、残された石積み・石垣もこの時間幅で捉えられる。

(1) 主郭

① 中曲輪・・・中曲輪中段に自然石を用いた石塁(材:安山岩等、積み方:野面積み・横目地)

② 天守台・・・主郭土塁を利用し、北西隅に構築されている。東・南面の2面に高石垣があり、基底部から天端まで一度に積まれている。多少反返しがある。西・北面は低石垣によって区画されており、建物が存在した可能性もある。多くは無加工の自然石が用いられている。

(『甲斐国志』に礎石の記載あり。)

③ 大手虎口・・・土塁腰石垣(大型の石材を3・4段積む。)

現大手土橋石垣(北面:二段積み・南面:天守と同じ積み方。)

旧大手土橋石積み(発掘調査によって部分的に確認。裏込めはなし。)

④ 西虎口・・・土塁腰石垣(大手より小型の石を中心に3・4段積む。)

土橋石垣(北面:二段積み・南面:崩落により積み直されているため不明)

⑤ 主郭南土塁・・・基底部石積み(土塁基底部に埋め込まれており、裏込め等は不明。小型の石を積上げている。)

(2) 西曲輪

① 北側枡形虎口・・・1・2号門跡の両脇に存在。枡形内側に位置する2号門跡では乱雑ながら大小の石を混ぜた石垣が存在。

② 南側枡形虎口・・・枡形外側に位置する1号門跡はすでに消滅しており、2号門跡両側に北側同様の石垣が存在。

(3) 北側諸曲輪

① 味噌曲輪馬出土塁・・・土塁表面に貼り付けるようにして石が積まれていた。裏込めなし。

② 味噌曲輪西土塁・・・土塁腰石積みで小型の石を箱積み。裏込めなし。

